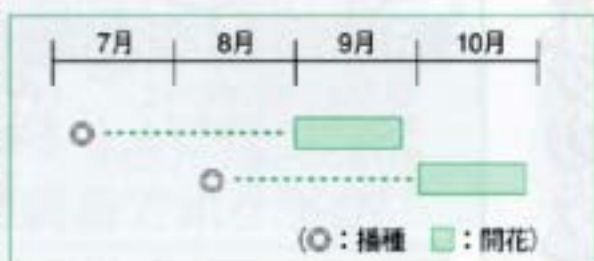


家庭花壇を作りましょう 〜国体に向けて〜

今年は三十七年ぶりに国体が埼玉県で開催されます。十月二十三日から二十八日の秋季大会は熊谷市がメイン会場となり、J A ほかや管内の市町も競技会場になっています。全国から訪れる選手へ、まごころのメッセージとして皆さんも花を育ててみませんか？

ヒマワリ

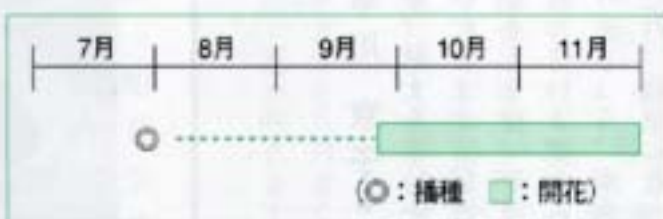


(育て方)

株間を二〇×一〇cm程度とし、一穴あたり二粒播き、子葉が開いた頃、間引いて一本にします。播いた後、種が隠れるくらい(約1cm)土をかけます。場所は、日当たりと排水がよいところが適しています。水は土の表面が乾いたら与えます。葉色が黄色くなったら、肥料不足が考えられますので、市販の液体肥料などを与えます。

小さい苗のうちには、ヨトウムシやネキリムシがつきやすいので防除してください。

コスモス



(育て方)

二〇×二五cm間隔で一穴三粒まき、本葉が開いた頃、間引いて一本にします。播いた後は軽く土をかけます。水は土の表面が乾いたら与えます。肥料が多いと伸びすぎて倒れやすくなります。

追肥は控えめにし、月に一回程度、市販の液体肥料を与えるようにしましょう。うどんこ病・アブラムシ・ハダニに注意して殺菌・殺虫剤で処理します。草丈を低く抑え、株をコンパクトに仕上げするには、六〇cm程度に育ったところで茎の芯を摘みます。わき芽が伸びてきますので、この先に花を咲かせるようにするとよいでしょう。摘んだ芽は、さし芽をすれば

発根しますので、これを植えてもよいでしょう。

マリーゴールド

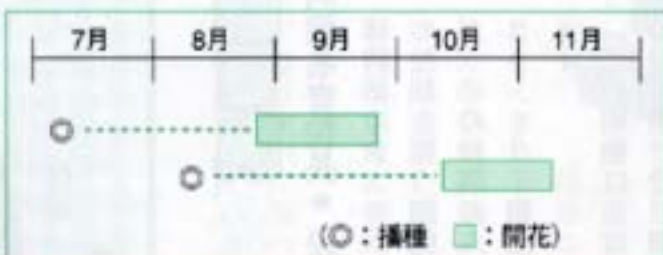


(育て方)

発芽適温は一五〜二〇℃です。光を嫌う種なので、土をかけることを忘れないでください。本葉が二〜三枚になったらポットに鉢上げして育てます。九cmポリポットに一本植えにします。育苗中はよく日に当てましょう。鉢上げ後、本葉が六〜八枚になったら、花壇やプランターに植え付けます。株間は二〇×二〇cm〜二五×三〇cmにします。水は土の表面が乾いたら与えます。肥料が多すぎると葉茎ばかりが茂って開花が遅れるので、肥料を与えすぎないようにします。二週間に一回程度の割合で、市販の液体肥料を与えましょう。乾燥し

た時期に、ハダニがつきやすいので防除してください。

ケイトウ



(育て方)

ケイトウの根は直根性で支根の発達が少ないため、植え替えをすると根傷みます。移植しないうちに二〇cmで数粒ずつ直まきし、発芽したら間引いて各々一本にします。水は土の表面が乾いたときに与えます。水のやりすぎは根腐れの原因になるので注意が必要です。肥料が多すぎると、茎が太くなりすんなり育たないため、市販の液体肥料は月一回程度にとどめましょう。ヨトウムシ・ハダニがつきやすいので防除してください。丈夫で作りやすいですが、水はけがよく、日当たりのよい場所で育てましょう。